

学習過程のポイントを押さえた授業案作成

教師の悩み 授業案をどのように記述してよいか分からない…。



学習過程のポイントを押さえた授業案を作成し、授業に生かしましょう！

◎ 本時のねらい

…の計算の仕方を、…することができる。(思判表)

<単元構想の工夫と本時のねらいの明確化> (魅力あふれる授業づくり資料①参照)

	◎ 学習過程	学習活動・内容	○指導上の留意点	●評価 (例)
課題把握	1	<p>本時の学習問題をとらえる。</p> <p>問 1パック10こ入りのたまごを6パック買いました。このたまごを1人に20こずつ分けます。たまごは何人に分けられますか。</p> <p>式 $10 \times 6 = 60$ $60 \div 20 = \square$</p> <p>2 学習課題を設定する。</p> <p>めあて $60 \div 20$はどのようにすれば答えを求めることができるのだろうか？</p>	<p>○ 日常生活に関わりのある具体物を提示することにより、子供が課題に対して追究したいという意欲をもつことができるようにする。</p> <p>Point<指導上の留意点の書き方></p> <p>※ 指導者の動きや心構えを書く必要はありません。</p> <p>※ 子供の主体的な学びを引き出すために、「～させる。」授業から脱却しましょう。</p> <p>①「(指導者が)～することにより【具体的な手立て】、(子供が)～できるようにする【目指す姿】。」</p> <p>②「(子供が)～できるように【目指す姿】、(教師が)～する【具体的な手立て】。」のように、【具体的な手立て】と【目指す姿】が記述できると授業イメージがより明確になっていきます。</p>	
	3	<p>学習の見通しを立てる。</p> <p><結果の見通し></p> <ul style="list-style-type: none"> 3人くらいにわけられそう… <p><方法の見通し></p> <ul style="list-style-type: none"> 図にして求める。 計算で求める。 たまごパックを使って考えると…。 	<p>Point<課題に対する見通しの記述></p> <p>※ 子供の反応をできる限り予想して記述しましょう。</p> <p>※ 見通しには答えを予想させたり、仮説を立てさせたりする「結果の見通し」と、これまでの学習で使えることは何か、どのような順序で行うかなどを考えさせる「方法の見通し」があるので、使い分けましょう。</p>	
	4	<p>課題を解決する。(自力解決)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1パックのたまごを●にした図に表してみよう。 たまご1パック(10)を1と考えて計算してみよう。 	<p>○ 10のまとまりに着目することができるよ、「どうすれば簡単に答えを求めることができるか。」問いかけたり、児童の実態に応じて半具体物を提示したりする。</p>	
課題解決			<p>Point<発問や予想される子供の反応の記述></p> <p>※ 本時のねらいに近付き子供の反応を引き出すための発問の吟味は大変重要です。本時における発問を精選し、特に大切にしたい発問を中心発問として明記しておくこともぜひ行いましょう。(指導上の留意点に記述してもよいでしょう。)</p> <p>※ 子供の反応をできる限り予想して記述しましょう。</p>	<p>Point<学習過程や学習活動の記述></p> <p>※ 子供の視点で記述しましょう。(学校の形式が「指導過程」等であれば、指導者の視点で記述します。)</p> <p>※ 「知識・技能」を評価するならば計算練習等、「思考・判断・表現」の評価であれば話し合い活動や説明する活動等と工夫しましょう。</p>
	5	<p>交流を通して、考えを広げ深める。(問題の答え)</p> <ul style="list-style-type: none"> 答えは 3人。 <p>(解決の方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> たまご1パック(10こ)を1とすれば $6 \div 2$で考えられる。 $60 \div 20 = 3$と $6 \div 2 = 3$で答えは同じになる。 	<p>Point<学習内容の記述></p> <p>※ 評価するために、本時の学習内容を記述しておきましょう。キーワードとして学習の振り返りに活用を図ることもできます。</p> <p>● 10のまとまりに着目して計算するよさに気付いて説明している。(発表・ノート)</p>	
まとめ・振り返り	6	<p>本時の学習をまとめる。</p> <p>10を1つのまとまりとすれば、$60 \div 20$は $6 \div 2$と同じように考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適用問題を行う。 $90 \div 30$… 	<p>Point<評価の記述></p> <p>※ 評価する学習場面にそらえて記述しましょう。</p> <p>※ 評価するための方法を記述しましょう。</p> <p>※ ねらいの達成に不十分な子供に対する手立てと上位の子供をさらに伸ばすための準備をしておきましょう。(指導上の留意点に記述しておくともよいでしょう。)</p>	
	7	<p>本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図に表したら、まとまりで考えることができた。 去年学習した方法で、問題を解くことができた。 〇〇さんが分からない部分を教えてくれた。 〇〇さんの説明が分かりやすかった。 	<p>○ 次時の学び方につなげることができるように、既習事項を生かした学びや友達との学び合いといった学び方のよさを価値付け、全体にそのよさを広める。</p> <p>Point<まとめ・振り返りの記述></p> <p>※ 本時のねらいとまとめの整合性を図りましょう。</p> <p>※ まとめの際は、表記したまとめを参考にして子供の言葉でまとめましょう。</p> <p>※ 子供たちの学びの何を見取り、子供たちに何を気付かせていくのかを考え、表記しましょう。</p>	

<魅力ある学習課題の設定> (魅力あふれる授業づくり資料②参照)

<まとめ・振り返りの充実> (魅力あふれる授業づくり資料③参照)

実際の授業案については各学校の形式で作成されて結構です。授業の主役は子供たちです。授業案は「教師と子供が創る授業の台本」です。台本がすばらしいければ、きっとすばらしい授業となるはず。本番の授業では子供たちとのアドリブを愉しんでください。

参考資料：ふくしまの「授業スタンダード」・「学びの変革」授業デザイン・南会津「自ら学ぶ子供の育成」リーフレット